

## 川崎市長選アンケート(中)

※上から届け出順

26日投開票の川崎市長選で、各候補に行った神奈川新聞社のアンケート。2回目は「子育て支援や教育施策でまず取り組みたいこと」と「高齢者施策についてどのような対策を打ち出すか」の回答を紹介する。

(川崎市長選取材班)

## 子育て支援の考え方

## 高齢者施策について

 國谷 涼太氏	子育て見守り・赤ちゃん用品定期便、「アフォーダブル住宅」の供給、ブッシュ型の子育てサービス等により、子育ての経済的・精神的な負担を軽減します。教員の負担軽減や民間経験のある人材の採用により、幅広い視点で丁寧に生徒と向き合う教育を目指します。	シニアの社会参加を促進し、健康寿命の延伸を目指します。また、ICT(情報通信技術)機器を活用した見守りにより、家族と離れていても安心して過ごすことができる環境を整えるほか、デマンド交通の導入により生活の利便性向上にも取り組みます。
 野末 明美氏	子育て世帯の経済的負担軽減のため、18歳までの子ども医療費無料化は来年4月より実施・中学までの学校給食費の無償化・高校生と大学生への給付型奨学金制度拡充を実施します。教育環境を守るため、教員の未配置解消・不登校支援の充実に取り組みます。	特別養護老人ホームは待機者が2千人を超えています。市営住宅も不足しています。しかし川崎市は新規建設計画を拒否しています。私は、特別養護老人ホームを緊急に5カ所新設・市営住宅を増設します。高齢者の生活支援に、補聴器購入補助制度を創設します。
 福田 紀彦氏	妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を進めます。また、子どもの朝の居場所や全天候型遊び場等、子育てのニーズにきめ細かく対応します。教育では、高度なものづくりやデジタル能力を身につける高専を企業や大学と連携して設立し、産業の担い手を育てます。	市独自の「健幸寿プロジェクト」の参加者は、要介護度の改善率が全国平均の約2倍です。さらなる介護予防・重度化防止の取組強化や住み慣れた地域で暮らしが完結する「ケア付き地域」の実現に向け、人材の確保・定着や生活を支える地域資源の充実を図ります。
 山田 瑛理氏	家庭の経済状況で子どもの可能性が左右されないよう、機会格差の是正に取り組みます。趣味や学びに挑戦できる「やってみたい応援バス」の試行実施検討や、保育料の負担軽減、志ある先生が力を発揮できる環境整備を進めます。	高齢者の孤立を防ぎ、地域で支え合いながら社会とつながり続けられる体制を強化します。コミュニティー交通の充実や地域の居場所づくりを進め、外出や交流を支える安心のまちを実現します。
 関口 実氏	障がい者が結婚している割合は、「健常者」が結婚している割合よりも低い。この背景には、障がい者の収入が不安定であることがある。2025年のジェンダーギャップ指数を見ると、日本は148カ国中118位だ。差別をなくすことが必要だ。	「高齢者が幸せに暮らすことができる社会」を市民との話し合いでつくっていきたい。

おことわり 川崎市長選に立候補している宮部龍彦氏については、経歴や出馬に当たっての主張に著しい差別的言動があり、差別が拡散する恐れがあるため、異なる扱いとしております。